



JAPAN AIRLINES

JALふるさと応援隊

2021年度から市内の小中学校にて、客室乗務員が児童や生徒に向けて、お仕事紹介やマナー、コミュニケーションなどの講演を実施しています。そのプログラムには、「SDGs」を学ぶ講演もあり身近ないなべ市の取り組みや、日本航空の取り組みを紹介しながらSDGsについて考える機会としています。



折り紙ヒコーキ教室 × INABE SDGs 4T PROJECT

折り紙ヒコーキ協会の技術指導を受け、認定の指導資格を持った社員が飛行機の仕組みを取り入れた折り方を教えます。親子や友達同士で遊ぶことの楽しさを実感してもらうこのワークショップを2023年、いなべ市と「INABE SDGs 4T PROJECT」として開催。市内の子どもたちにヒコーキづくりと合わせ、JALの取り組みを知ってもらう機会とします。



ユニセフ支援

1991年より成田＝NY線にて、海外旅行で使い残した外国の通貨をユニセフ募金として集める機内募金「Change for Good®」を開始しました。

2006年には、国際線自社運航便の全便に拡大、2019年からは国内線(日本航空運航便対象)も対象に実施しています。

この活動を通じて集められる募金は、子どもたちの命と健康、権利を守るためのユニセフの活動に活用されます。

SAF(Sustainable Aviation Fuel) ＝持続可能な代替航空燃料の開発促進と活用

航空業界ではこれまで、使用燃料の削減という観点からCO2削減に取り組んできました。

今後、さらに削減するためには、使用する燃料自体の質を変える必要があります。この観点から、欧米を中心とした世界各国でSAFの開発や実用化が進められており、2030年以降の本格的な普及が予想されています。このような流れの中で、JALグループとしてもSAF利用のリーディングエアラインとなるべく、「2030年に全燃料搭載量の10%をSAFに置き換える」という目標を掲げ、官民で連携し、国内外のステークホルダーと協働してSAFの商業化に取り組んでいきます。



2021年から地域活性化活動を拡充し、「地域を元気に！笑顔をつなぐ！」をコンセプトとして、多様化する地域社会の課題に対し、JALグループが培ってきたノウハウやネットワークを活用し、地域産業支援を通じて、地域へのモノや人の流れを促進する活動に取り組んでいます。地域の人たちと一緒に地域を盛り上げ、“地域・ヒト・モノをつなぐ”お手伝いをしています。